

平成 30 年度南予地方局予算の実施状況(H31.3.31 現在)

- 1 予算事項名 大洲喜多地区農地担い手確保推進事業費
- 2 事業期間 平成 30 年度～令和元年度
- 3 所 管 産業経済部八幡浜支局地域農業育成室
- 4 事業概要

大洲・喜多地区の国営農地(440ha、65 団地)は、基幹作物の葉たばこ廃作等により、約3割の農地が未利用となっているため、担い手確保推進のモデル地区として新たに重点波及地域4地区を選定し、関係機関・団体による農地の流動化と農地の集積に向け総合的な支援を行い、農地担い手の確保・育成を進め国営農地の復活を図る。

	平成 30 年度
予算額	754 千円

5 30 年度の事業実施状況

重点波及地区：新谷・大川・五城・大瀬

開始時(H29) 対象面積 128.5ha 荒廃農地面積 43.2ha	H30 年度末 荒廃農地面積 33.4ha 農地担い手集積率 80.6%
---	---

大規模な農業経営を模索する農業法人等が規模拡大

- (株)みさき果樹園(タマネギ)
 - (株)テレファーム(カット野菜・有機栽培)
 - (株)たいよう農園(キャベツ、タマネギ)
 - (株)フジファーム(キャベツ、カボチャ)等
- 認定農業者等の担い手の参入
- くり栽培への転換、葉タバコ、キュウリ、カボチャを栽培

(1) 農地担い手確保推進会議の開催

関係機関・団体で組織する喜多広域営農団地推進協議会幹事会を開催し、平成 29 年度の農地流動化の進捗状況を報告し、地域の実情にあった耕作放棄地再生方を協議するとともに、耕作放棄地対策を実施することとした。また、広島県世羅町における荒廃園地対策の事例を調査するとともに、重点地区の農地利用状況を調査し農地流動の情報収集に努めた。



集落座談会 新谷地区

(2) 重点地区荒廃農地再生活動の推進

重点地区の新谷・大川で「人・農地プラン」集落座談会により、担い手の掘り起こし、地域の農地集積等について協議を進めるとともに、重点地区以外でも人農地プランの見直しと集落営農につて協議した。



経営相談

また、国営参入法人4社や認定農業者 51 戸において経営相談活動を実施し農地集積を進めた。さらに、国営開発農地への栽培を進めるため、かぼちゃ・もも・なし・くり等の栽培講習会を実施した。

(3) 振興作物の高位生産技術の確立

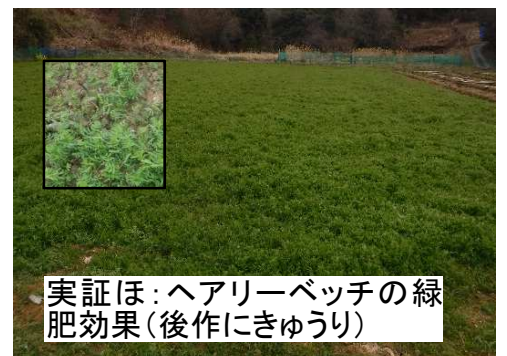
振興作物の栽培技術を確立するための実証ほを設置し、荒廃農地の解消及び再生に必要な被覆作物利用技術の確立・普及を図った。

実証ほ内容

- ① 緩効性肥料を使ったキャベツ栽培
- ② ヘアリーベッチの緑肥効果
- ③ ナギナタガヤのキウイフルーツ草生栽培
- ④ ナギナタガヤのクリ草生栽培

(4) 振興野菜栽培指針の作成

振興野菜(きゅうり、かぼちゃ、玉ねぎ、白菜、モロッコいんげん)栽培指針を作成し認定農業者等に栽培を進めた。



実証ほ：ヘアリーベッチの緑肥効果(後作にきゅうり)